

【平成 19 年度事業】

1 会議の開催

(1) 総会の開催

平成 19 年 6 月 22 日 (金) 西日本総合展示場 中展示場 (AIM3 階)

(2) 部会の開催

第 1 回合同部会 (6 月 22 日)

実証部会と技術部会の合同部会として開催する。 総会と同時開催

第 2 回合同部会 (10 月末予定) 産学連携フェアに併せて開催

2 研究開発の促進

北九州市で生まれたロボットが実際に導入され、製品化・商品化につながるように、市場を見据えた研究開発プロジェクトを促進する。ユーザーとのマッチングや国等の研究開発助成の獲得支援など、コーディネート活動を行う。

(1) 福祉・医療施設におけるロボット・ロボット技術導入可能性の調査及び研究会への助成

昨年度の公共ニーズ調査の結果、他都市に比較し高齢化の進展が著しい北九州市においては、福祉・医療施設へのロボット導入のニーズが相対的に高いことが明らかになっている。

今年度は福祉・医療施設をターゲットとしてロボット導入可能性調査を実施し、調査結果を基に、既存ロボット・技術の活用及びカスタマイズ、さらには新たなロボットの開発等をめざして研究会の立ち上げを行い、活動経費に対して助成を行う。

(2) 研究開発プロジェクトへの支援

市内の大学や企業等で進められている様々な研究開発プロジェクトに対し、研究会の運営や技術的な課題への助言、ユーザー側とのマッチング、国等の研究開発助成の獲得支援などのコーディネート活動を行う。

例：空港内搬送案内ロボット、配管内遠隔検査補修ロボット など

3 実用化・事業化の促進

会員による製品・技術の紹介など、市場創出に向けた取り組みを実施する。また、開発熟度の高いプロジェクトに対して実証の場の提供を行う。

(1) ロボット産業マッチングフェア北九州の開催

会員によるロボット関連製品・技術及び研究成果発表を通して、継続的にビジネス機会の創出を図る。

平成 19 年度：平成 19 年 6 月 21～23 日 会場：西日本総合展示場 新館

(2) 実証フィールドの提供

試作品が完成し実証段階を迎えた研究開発プロジェクトについて、公共施設等を実証フィールドとして活用できるよう調整を図る。

例：下水道管渠検査ロボット、空港案内ロボットメーテル、など

(3) ロボット導入に伴う安全対策の検討

ロボットを実際に導入・運用していく上で必要な安全対策について、北九州空港での実証運用をモデルケースに、安全性を担保するルールや体制づくりなどの検討を行う。

4 人材育成の推進

体系的な人材育成プログラムを作成し、各世代できめ細かな人材育成事業を実施することを通じて、産業界に継続的にロボット人材を輩出する仕組みをつくる。

(1) ロボカップチームへの支援

国際的なロボット競技「ロボカップ」に参加している北九州学術研究都市の学生等からなる合同チームに対し、技術的な助言・サポートや活動場所の確保、各種展示会やイベント等での取り組みの紹介などの支援を行う。

(2) 次代を担う人材の育成

ロボット技術者養成への第一歩として、小中学生を対象としたロボット工作教室などを開催し、子どもたちが初めてロボット製作に触れる機会を提供する。

また、市内での体系的なロボット人材育成の一環として、企業の中核人材や、工業高等専門学校生、などを対象とした人材育成の取り組みを支援する。

5 情報発信・交流の促進

北九州市が保有するロボット技術について市内外にPRするとともに、市民のロボット技術に対する理解を深めるため、ロボットに関する情報やフォーラムの活動を積極的に発信する。

(1) 国際ロボット展 2007 への出展

東京幕張メッセで開催される国際ロボット展において、北九州市内のロボット・ロボット技術の展示・PRを行う。

(2) フォーラムのPRの推進

国際ロボット展のほか各種展示会や会議等への出展、PR事業の実施等、あらゆる機会を捉えて、市内外に広くフォーラムの活動を発信する。

また、ロボット技術の紹介、関連情報の発信等を行うようなロボット展示機能のあり方について検討する。